

【令和元年度第4回】江差町総合計画策定審議会 議事録

開催日時 令和元年12月27日（金）
午後3時30分～午後6時00分
開催場所 江差町役場 1階 保健センター

[会議次第]

- 1 開会
- 2 審議会長挨拶 江差商工会長 赤石 智恵美
- 3 会議成立宣言 江差町総合計画策定審議会規則第4条第3項
- 4 議長選出 江差町総合計画策定審議会規則第4条第2項
- 5 議事
報告第1号 事務の取組状況について…3ページ
議案第1号 第6次総合計画（基本構想・基本計画）の原案について…別紙、配布資料
説明順：産業振興課→追分観光課→まちづくり推進課
議案第2号 今後のスケジュール案について
- 6 その他
- 7 閉会

[出席者]

◎審議会委員 会長 赤石 智恵美
副会長 古地 順一郎
委員 小笠原 裕章，浅見 尚資，田畑 昌伸，堀田 俊一，東野 政史
石岡 典子，金子 剛，田上 香，中島 晶子，萩原 香澄，植松 愛
久米 早苗
委任状 高岡 広明，飯田 隆志，田中 利明，三上 修吾，庄司 寛
以上19名（全20名中）

◎町

まちづくり推進課（事務局）

出崎 雄司^{課長}，長尾 恵一^{主幹}，西山 和男^{係長}，
追分観光課 尾山 徹^{課長}
産業振興課 久保田 栄徳^{主幹}

以上5名

◎株式会社ぎょうせい 木戸 隆^{研究員}

以上1名

合計25名

議 事 録

午後 3 時30分

1 開会

(出崎課長)

令和元年度第 4 回江差町総合計画策定審議会を開会します。

2 審議会長挨拶

(赤石会長)

みなさん、こんにちは。令和元年も今日を含めて残すところあと 5 日となりました。この多忙を極めるときに、委員の皆様にはこのように多数集まっていただきまして心よりお礼申し上げます。総合計画のフレームづくりから始まりまして、今回は素案という形で、お示しさせていただきました。前回の会議でいただきました多数のご意見をいろんな形で反映しながら、今日は原案という形で提案させていただいております。まだまだではありますけれども、だいぶ完成形に近づいてきたのではと思っております。

総合計画は、この審議会でもいただくご意見の他に、町民アンケートから始まって、町民ワークショップ、それから役場の若手の皆様からの提案、そして農業、商工業、観光、漁業とそれぞれの分野別に町長と膝を交えて、町民まちづくり懇話会を開催いたしました。また、議会の方では特別委員会が設置されています。このような中で、大変多くのご意見を色々な形で頂戴しております。

そういう町民の皆様の意見をいろんな方面から色々な形で反映をしていくべく、肉付けをしながら皆様にご提示しているところです。総合計画は、町の理念、これから江差町がどんな町になっていかなければならないのか、どんな町にしたいのか、そのようなことを根本的に示していくというものです。いつもお話にありますけれども、総合計画は江差町にとっての最上位の計画となっています。

皆様方のそれぞれのお立場から、役職から、そしてまた、皆様の個人的な感想も踏まえながら忌憚のないご意見を多数頂戴して、肉付けを進めてまいりたいと思います。江差町にとっての背骨となる大事な計画でございます。今日も最後までお付き合いいただきますよう、どうぞよろしくお願いいたします。

3 会議成立宣言（江差町総合計画策定審議会規則第 4 条第 3 項）

(出崎課長)

江差町総合計画策定審議会規則第 4 条第 3 項に基づき、本日、委員 20 名中 14 名の本人出席、5 名の委任状出席ということで合計出席数 19 名となり、過半数以上であることから本審議会が成立しておりますことを宣言します。

4 議長選出（江差町総合計画策定審議会規則第 3 条）

(出崎課長)

続きまして、議長の選出でございます。江差町総合計画策定審議会規則第 4 条第 2 項に基づき、議長は会長があたることとなっておりますので、この後の議事進行につきましては、赤石会長にお願い申し上げます。

6 議事

(議長)

報告第 1 号を事務局から説明を求めます。

(事務局)

報告第 1 号 事務の取組状況について

議案 3 ページをご覧ください。2 ページはこれまで行った取り組みについて10月末まで記載しており、3 ページは11月からの日程となっております。前回は11月28日に 3 回目の審議会を開催しました。今日は 4 回目の審議会ですので、12月17日と20日の部分だけがこれまでの事務の取組状況です。17日は江差町議会の特別委員会がありまして、まちづくり推進課と建設水道課が出席し、第 6 次総合計画の素案と、都市マスの進捗状況等について説明を行いました。そして20日は、振興局から来年度の地方創生推進交付金の実施計画提出及び今後のスケジュールに関する通知が届きましたので、それに目掛けて事務を進めています。実施計画書については、来年の 1 月 8 日13時まで振興局へ提出するというので、観光DMO事業をメインで進めているところです。以上でございます。よろしくお願いいたします。

午後 3 時38分

議案第 1 号 第 6 次総合計画（基本構想）の原案について

(議長)

取組状況の説明が終わりました。では続きまして、議案第 1 号の第 6 次総合計画の原案、基本構想につきまして、委託業者に説明をお願いします。

(委託業者)

私からは、総合計画の「第 1 編 序論」、「第 2 編 基本構想」について、前回の案から変わったところを中心に説明いたします。では 9 ページの昼夜間人口比率。昼間に江差町に何人人口がいて、夜何人人口がいるか、つまり外からどれだけの人が働きに来て、あるいは通学に来ているかという指標になります。江差町は、減ってはきているもののまだまだ昼間の人口の方が多く、外から働きにきたりしている方が多い状況です。今回加えたのが、従業者、通学者。これを区分けして表示しております。両方とも減少傾向にあることに変わりはありません。

次に11ページ、江差町の産業別就業者数の推移。江差町民がどのような仕事に従事しているかという構造を今回、新たに載せております。1 次産業、2 次産業、3 次産業、詳しく見ていくと、1 次産業については、全体の常住者の構成比としては上がってきています。これは全体が減っていることもあるんですけども、総体的に 1 次産業従事者が上がっています。特に農業については就業者そのものも増加しています。一方で漁業については、就業者が減少しています。2 次産業は、全てのジャンルにおいて減少傾向にあります。3 次産業については、全体ではあまり構成比は変わっていませんが、特に就業者ベースでみると卸売業、小売業が平成17年に651人いたのに対して平成27年には517人と、全部の産業の中で特に就業者が減っている産業分類となっています。なので、江差町としては特に商業の従事者が数的に減っていることが窺えます。

しかしながら、16ページ商業のところでは、商業従事者あるいは販売業については、決して減少一辺倒の傾向ではないというところは前回説明しましたとおりですが、17ページには新たに類似団体との比較を載せております。類似団体は何かと申しますと、まず、せたな町については、この檜山圏域で人口が同規模ということでピックアップさせていただきました。あとの 4 つの町については、総務省が、類似団体という分類を設けておりまして、どういう分類かという人口規模と産業構造、産業構造とは何かというと 1 次産業と 2、3 次産業との比率、これで区分しているものですが、江差町は第 2 区分という所になっています。その区分の中から、特に海洋産業があるような町をピックアップしました。それが、松前町、長万部町、洞爺湖町、白糠町です。ちなみに、海のない自治体で類似団体とされているのは、奈井江町と弟子屈町があるんですけども、今回の比較から除外しました。この類似団体の中で比較すると、江差町は、商店数、従業

者数、あるいは年間商品販売額については1桁違うというところで商業環境は比較的良好なのではないかと感じます。

では、20ページ地域経済循環率です。前回ご指摘がありましたので、類似団体との比較を加えております。今、申し上げた類似団体と比較すると、せたな町、松前町、長万部町、洞爺湖町、白糠町と比べ、いずれよりも江差町は高い水準にあるということで、類似団体よりも商業環境が良く、かつ比較的地域にお金が落ちている状況が窺えます。

24ページには、江差町の主要課題のうち財政サイドから、主なインフラ維持に係る決算額を追加していただきました。

そして、いよいよ基本構想の話ですけれども、26ページからになります。前回の会議でかなり時間を割いた部分ですので、今回についても、ぜひご議論いただきたいところです。まず案1ということで、私の方で案として、まちの総合計画のキャッチコピー、キャッチフレーズのようなものを挙げさせていただきました。「古（いにしえ）」とか「未来」という言葉が江差の今後10年間で非常に重要なキーワードになる部分というところと、北だけれども気候的にも人間的にも温かいというようなところを、コピーをしたものでございました。あくまでも案としてお出ししたもので、前回色々なご意見が出ました。それを踏まえて、26ページの中段に総合戦略で設定している「エエ町、江差」というロゴを貼り付け※をつけて、総合戦略の中で言及している説明を記載しました。「エエ町、江差」は、総合戦略のアクションプラン、つまり江差町が展開するいろんな一個一個のアクション、政策に対して、サブコピーを色々変えて運用するということです。ですので、その「エエ町、江差」というのを基本において、サブコピーを色々変えたバージョンを案2から案6で載せています。私が出したものですから、色々ご意見があるかと思います。ぜひとも皆様には、入れるべき要素をこの会議で出していただければと思います。

あと、変えたところで申しますと、30ページからの人口ビジョンです。人口推計の類になりますが、基本的なロジックは前回と変わりません。何が変わったかということ、36ページ以降の方針というところです。皆様にはこれまでの会議で一度説明したかと思いますが、人口ビジョンは、ベースとなるいろんな数字について最新のものに時点更新しますけれども、ビジョンそのものは変えませんということで、報告があったと思います。その人口ビジョンの方針を少しわかりやすいように、36ページ、38ページで説明しました。町としては、郷土愛が強くまちに帰ってきたい若者をメインターゲットにするだけではなく、Jターン、Iターンといったところも取り込み、トータルで60人毎年獲得していくということを、改めて強調する形で記載しております。また、39ページ、関連計画との整合では、Society5.0について、まだ具体的にどうするかというよりも、計画推進の中で考え方としてしっかり持っていくというところを文書で記載しました。序論から基本構想までの、主に変えた部分というところで報告させていただきました。

午後3時50分

議案第1号 第6次総合計画（基本構想）の原案の意見聴取
（議長）

事務局から補足などありますか。

（事務局）

今日の会議は、大きく2つの議題が柱となっていくと思います。その一つが、今説明がありましたキャッチコピーです。もう一つは各分野別の施策です。後ほど、素案から原案になるまで、ここが変わったという説明があります。

キャッチコピーについては、前回もみなさんにたくさん議論をいただいて、ご意見をいただきましたが、その上で、委託業者から6つの案を示していただいておりますけれども、この中から選ばられれば良いですけども、選ばれないとか、ちょっとこういう考え方があるのではないかなど、もっとみなさんからご意見をいただければいいなと思っていました。

ただ、その前提として提案をさせていただきたいという話です。それは、今説明のあった「エエ町、江差」についての扱いですが、前回の審議会において「エエ町、江差」に対しては、みなさんやっぱり「いいんじゃないか」という好感度が感じ取れたかなと、私たちは思っております。

従いまして、「エエ町、江差」は、当面、江差としてのメインのキャッチコピーとして使っていないかということ、まずは総合計画策定審議会のみなさんにお諮りをして、確認をいただきたいと思っています。

その例えばの使われ方として、今回の総合計画でいいますと、製本された表紙に「エエ町、江差」ロゴが使われたり、あるいは町の個別的な計画の表紙になり中身にも「エエ町、江差」ロゴが使われたり、また各種会議の資料にも余白に「エエ町、江差」を掲載するとか、そういうことをやりながら、「エエ町、江差」の浸透を図っていくということです。その上で、向こう10年間のキャッチコピーをこの場で見つけていきたいと思っていますところです。

(事務局)

まさしくそのとおりで、平たく言うとSDGsと同じ扱いにしたいということです。SDGsは17の目標があるのですが、江差町のいろんなプランに対して、行動に対して「エエ町、江差」というのが総称としていろんな場面で出てくるということです。この計画は何のためにあるんですかという、最後に目指すゴールは「エエ町、江差」というものを目指している、というようなものにしていきたいというのが事務局の提案です。ですから今回、基本構想についてこれからみなさんで議論してもらい理念に対するフレーズと、計画・活動・行動といったプランに対する総称と使い分けをしていきたいというのが、みなさんにお諮りしたいということです。

(議長)

もう少し具体的な例で説明をお願いいたします。

(事務局)

先ほど言ったとおり、例えば都市計画マスタープランが同じ時期に策定していますが、これが出来上がります。その中で、このプランの最終ゴールは「エエ町、江差」を目指すためのプランなんですという意識付けをさせるということで、「見せる」という使い方をしていきたいと思っています。ですから、それが計画の表紙になったり、あるいはこれから役場で様々な事業を実施するにあたり、最後この計画のゴールは「エエ町、江差」に向かうアクションプランなんですとか、今そのための会議をやっているんですとか、「エエ町、江差」がそういうふうに使われていくと、このキャッチコピーは総合戦略ではなくて、総合計画のキャッチコピーになっていきます。そんなふうに向けていきたいと思いますということなんです。これから江差町が進めていくすべての施策・計画そういったものに、これを必ず見せていきたいと思います、ということが町民の方々にも意識付けになっていくんだろうな、そういう使い方をしたいという提案でございます。

(議長)

トレードマークのような、スタンプが押されるような形で「エエ町、江差」というのが付いていくということですね。よろしいでしょうか。ということで、それでは基本構想の議論に入っていくてよろしいでしょうか。若しくは、どうしようという議論でもよいでしょうか。

(事務局)

どうしようという議論でも大丈夫です。

(議長)

44ページ「施策体系」を見ていただくとわかりやすいのかなって思います。そこに「古(いにしえ)とみらいをつなぐ 北のあたたかさを感じられるマチ えさし」となっております。これ

は委託業者の方で、前に考えていただいた案です。「古（いにしえ）とみらいをつなぐ 北のあたたかさを感じられるマチ エさし」になるためにはどうしたらよいのか、ということで基本目標が1から4まで挙げられていて、各基本目標を成し遂げるためにはどういうことを進めるべきなんだろうかということが施策分野で決められていて、その中から、急激な人口減少対策に立ち向かうための重点施策を抜き出して総合戦略を作って具体的な施策を組んでいくんだよ、というような図解になっているかと思います。その一番上につくのが、今、考えようとしているキャッチの部分ですね。

ここでは「古（いにしえ）とみらいをつなぐ 北のあたたかさを感じられるマチ エさし」となっているので、例えばこの前の部分を「感じられるマチ エエ町、えさし」、そんな流れのつくりのイメージとしてよろしいでしょうか。ちなみに、私は都市マスのメンバーにもなっているものですから、都市マスの方でもこのキャッチを一番最初から示されておりまして、それはどういうものかと言いますと「歴史・文化・人々の絆が暮らしを彩り新しい出会いと賑わいを生み出すエエ町、江差」まさにこの、今作ろうとしている雰囲気です。「なんとかかんとかを目指そう エエ町、江差」。都市マスの方は長くて説明文が多いのと、都市マスの方に聞きましたら、総合計画でも今こういうのを作ろうとしているんだけど、都市マスと総合計画、全く違うものが出来たら困るんじゃないか、という話をしましたら、それは、都市マスは都市マスで考える余地があると、総合計画で何かよいものが出来たら、もしかしたら、これもちよっと変わっていくかもしれません、参考までに都市マスではこういうものを作っているというところでございます。

これを作らなければならないということになっておりまして、宿題ということになっていましたが、委員の皆様から何か提案などありませんでしょうか。

（A委員）

仕事の都合上、なかなか会議に参加できませんが、個人的にお話をさせていただきたいんですけど、小さい頃から「追分流れるロマンのまち江差」がずっと聞いている言葉なので、頭にそれがずっとあります。「エエ町、江差」。また新しいのをまた覚えるのかとなると大変だなって。そう言われてきているのに、また新しい戦略のつてなるとちょっと辛いと思いました。

この間、古地先生から「北のあたたかさを」の案を聞きました。江差は札幌から比べると北じゃないですよね。おかしいなって思って、それを題にするのが。北じゃない方がいいんじゃないかなって。あったかいにはあったかいかもしれないですけど、それは道内ではということで、東京に比べると寒いじゃないですか。それで、目線的にも「日本全国を見て」にした方がいいんじゃないかなって。何か違うなって思ったところはそこだったんですよね。何か、もうちょっとどうにか考えられないのかなって。

私の中で考えた結果は忘れちゃったんですけど、前回審議会で話された話の「いつまでも住み続けられるまち江差」。ホントは亡くなってでも居続けられる方がいいんですけど、亡くなった後、自分のうちももしかしたら、誰も後継ぎがいなければお墓もそのまま無くなっちゃうかもしれないし、そういう話は結構あるので、みなさんの中にも、将来を考えて長い目で見ると江差にずっと居られるのかなって不安があると思うんですよね。後継ぎがいればいいんですけど、うちももしかしたらここで終わるかもしれないので、そういうのも考えながら、ずっと亡くなった後でも住み続けられる江差があったらいいなって。（自分が）戻ってきたからこそ思うんですけど、外出て、外を見て、都会に行ってきた、色んなところ歩いての結果、やっぱり江差は住み心地良くなって。生まれた町だからだと思うんですけど、住み心地良くなって思っているの、そうなんだと思いました。

（議長）

そういうのが要素に入ってくれるといいなってことですよね。他にございませんか。こんなの考えたとか、単語とかでも良いです。こんな言葉が入ったらうれしいとか。何かございませんか。

では、私が考えたのを披露しても良いでしょうか。「町・人・歴史 唄と共に絆をつなぐ エエ

町、江差」。これは町をみんなで作っていききたい、町が好きだな、人のつながりもしたい、人が好きだな、江差は歴史もあるし追分の唄もある。その中身を入れたくて、それが絆ということで、今と同じように人とのつながり、絆を持ってつなぐというのが過去と未来、歴史と未来をつなぐという意味もあって、これからも住み続けるという意味も入った感じで、考えてみました。事務局と話した時にも、同じような内容ですけれども、こんな感じというイメージで出てきた言葉が「住みたい、ずっと住みたい、外に行っても帰ってきたい、外からは、ぜひ江差に行ってみたい、行ってみたらまた江差に行きたい」ということでした。そして最後に「エエ町、江差」が取り込まれればいいのかという雑談をさせていただきました。

（B委員）

キャッチフレーズの案ではないんですけど、気になったことが1点ありました。「エエ町、江差」のイメージなんですけど、以前、水堀に住んでらっしゃる方から伺ったことですが、ポスターがおそらくビジュアルイメージになっていると思うんですけど、歴まちだとか江差の市街地の方面の事しか書いていない、農作物だとか山のことが触れられていないポスターだったので、あまり快く思っておられませんでした。「うち関係ないもんね」という話を聞いたことがあったので、あれも一つのイメージだったんですけど、今後はなるべくそういう農村地帯や水堀、柳崎というところも、そこに住んでいる人も江差の一員だという事を感じていただけるようなものを考えていく必要があると感じました。サブコピーというもの付いていますけども、いま歴史だとか追分ばかりなのでそういう意識が含められたものが大切だと思います。江差朝市のロゴの「里（さと）」という字。そういう江差のイメージもありかなと。何かそういうものが入れられるといいのかなと思いました。

（古地副会長）

今、B委員がおっしゃって下さったこのあたりはけっこう重要だなと思っていて、さっき事務局からSDGsというイメージを近づけたいという話をされてましたけど、たぶんイメージとしてももちろん「エエ町、江差」があって、ここにつく形容感を表す文章、これはかなり包括的なものになった方がいいのかなと思うんですね。SDGsに関して言うと17の目標で貧困をなくすとかいろいろと書いてありますが、それをまとめる概念が何かといいますと「地球上の誰一人として取り残さない」というのが、SDGsの一番大きな理念なんですよ。ですから、事務局のイメージが違っていたら言って欲しいんですけど、たぶん総合計画の「エエ町、江差」の前に付くフレーズというのは、今SDGsでいうと、地球上の誰一人も取り残さないという事とそういう感じのニュアンスという事でよろしいでしょうか。

（事務局）

というよりも、そういうイメージもあるんですが、私はこの計画に入っているものというのは、誰一人取り残さないとか、町の人が輝きましょうとか、活躍しましょうとか、この町をもっと元気にしましょうとか、そういう思いが詰まったものなんですよ。ですから、それを感受してみなさんでもっといろんなプランに活用しましょうというイメージです。

（古地副会長）

なるほど。一番最上位の総合計画に付く「エエ町、江差」というのは、例えば先ほど赤石会長からご紹介いただいた都市マスのより、ある意味上なわけですね。だから、それも包括するようなものという考え方でよろしいですか。ということになると、こういうものを包括するようなものになってくのかなと思うんですけど、いかがでしょうかということでお返しします。

（議長）

はい、もうちょっとバンツとした言葉が欲しいところですね。今、事務局から出た「輝く」と

か「活躍」とか。

(事務局)

それはイメージとして挙げたもので、「輝く」とか「活躍」とかは、20年前の計画に組み込まれています。もう少し、今に則したものでみなさんからアイディアをもらえればと思います。

(議長)

C委員いかがですか。何か思いついたことはありませんか。

(C委員)

では、よろしいですか。26～27ページから見ていて、たぶんここから選ぶだろうなと思いましたので、サブコピーにしてもやっぱりキャッチなのであんまり長いものはどうなのかなと思って、自分で〇をしたのは、一番最初の「古と（いにしえ）と未来をつなぐ」でした。一番目に入ってきました。B委員の話を聞いた時に思いましたのが、転勤族のご父兄がよくおっしゃるのが「江差って食べ物おいしい」ってことでした。これは、みんなおっしゃるんですよね。食べ物がおいしくて困っちゃうみたいな事をおっしゃるので、何か里。水堀から農作物が採れてという話から思い出したんですけど、すごく豊かな土地というそういうイメージがよそから来る方にあるみたいです。逆に私たちが地元に住んでいると、それが当たり前なんだけど、そういう事を思い出したりしました。以上です。

(議長)

D委員どうですか。

(D委員)

この件とまた別個なんですけど、先日ある会で高齢の方が言っていたのが「江差って昔檜山の中心だったよね。」。それがいま近隣の町村が力つけている訳じゃないですけど、一目置かれていたものが、それぞれの町村が頑張っているいろいろやっていて。確かに私たち子どもの頃って函館ってすごい栄えてて、ある意味憧れがあったりして。でもこの世代になっちゃうと今更函館だって大した変わらないんですよね。なんか、そういう長く住んでいて江差に対して一抹の淋しさがあって。人口は減ってはいるんだけど、もうちょっと江差の誇りというのかな、今の若い人にそれを言っても無理なんだろうけども。

先日、新地で飲みながら近隣の人と話していたんだけど、「江差の新地で飲むってすごい事だったんだよね。町に帰って自慢できたもんだ。でも今、上ノ国や乙部にも飲み屋があって、たいして江差に来る魅力が無いんだよね。」と。全くこれと別個の問題になっちゃうんだけど、もうちょっと江差町の誇りというのかな、近隣と違って一目置かれる存在だったんだって思うと、何かさみしさを感じます。

(議長)

E委員どうですか。

(E委員)

私はC委員と同じようで、あまり長いフレーズはやっぱり残らないと思うんです。一次産業、二次産業、三次産業合わせて、「みんなで繋げ」とか、「みんな一緒に」とか。それに「エエ町」。この短いフレーズの方がいいじゃないかなと私も思いました。結局いろんな意味でとれるというように。だから追分もあるし、観光もあるし、いろんなことを考えての大雑把にという方がいいんじゃないかと。

(議長)

F 委員どうでしょうか。

(F 委員)

宿題だったことを全く忘れていました。私もC委員と同じで、この中から選ぶんだろうと思っていたのと、あと前回の資料の時もそうだったんですけど、私は委託業者が作ってくれたコピーを全然悪いと思っていなくて、この「古（いにしえ）」っていう言葉は、いいんじゃないかと。ただちょっと、北の暖かさの部分は私もしっくりこなかったのが実はあったんですけど、一番上の「古（いにしえ）と未来をつなぐ」でいいのかなとみていたのですが、こうやってたくさん出てくると「そうだよね、そうだよね」とどれも思ってしまう。ただ、何人かおっしゃっているように、あまり長いとこれは覚えられないかなと思いますので、なるべく短いのがいいんじゃないかなと思いました。新しい案が無くて申し訳ないんですが、以上です。

(議長)

G 委員お願いします。

(G 委員)

みなさんの言っていることを聞いていると、本当に何もしゃべられなくなっていました。みんな言っていることは本当にいい事ばかりで、全部を網羅すればいいんだけど、そんな言葉ってたぶんないだろうし、私もいろいろ考えて、結局はこの総合計画は最終的には未来へつなげるものなんだろうなと。未来につなげるという事は、持続性があるって続けていくという文言が入るので、未来をつなぐという文言が入って、先ほど言った古（いにしえ）というものの素敵だし、そこの何か探れたらいいのかなと思いつつ、なかなか「ガチッ」としたものができないですね。一応そのイメージでした。

(議長)

H 委員いかがでしょう。

(H 委員)

難しいですね。私もいろいろ思っているんですけど、いえてるのは、なるべく見た目でワンフレーズでわかればいいんでしょうけども、やっぱり将来、子どもたち。今生きている大人も大事ですけども、やっぱり子どもたちに対して伝えられるメッセージがあるといいんだろうなと言いつつも、どういう言葉があるのか答えが出ないですね。

(議長)

I 委員どうですか。

(I 委員)

私もこういうの全くセンスがないので、今皆さんの話を聞きながら26ページ下のがいいのかって。古（いにしえ）と未来をつなぐと。何となく思っていました。

(議長)

江差じゃないところからきてまだ数ヶ月。J 委員いかがですか。

(J 委員)

私もその、I 委員と同じで古（いにしえ）と未来をつなぐというその構文、昔の輝きを未来へ

とみんなで末永くつないでいくという構文がすごくいいんだと思います。そこに皆様の意見を入れてちょっと考えてみたんですけども、「古（いにしえ）の輝きをみんなで豊かな未来へつなぐ」という簡単すぎるんですけど。

（議長）

「古（いにしえ）の輝きをみんなで豊かな未来へつなぐ」ありがとうございます。では次に、K委員いかがですか。

（K委員）

江差追分って江差にしかない民謡なので江差をPRする中の一つとしてすごく大事な部分でもあると思うんですけど、キャッチフレーズも前回宿題と言われて色々考えてたんですけど、言葉はうまく浮かんできけはなかったんですけど、全部ひっくるめて子どもから大人まで、そして仕事をする人、農業であったり漁業だったりそういう人たちが光り輝いて欲しいなって。みんなが笑顔だと人も集まってくると思うんですよね。いろんな幸せな人を見てると、その人のそばに行きたくなったり、江差に住む人も一人ひとり輝けるような、輝くという言葉は、20年前、30年前にもあった言葉だと聞きましたが、自分の中では、一人ひとりに光をスポットが当たるという、すごく「光」というものがあったんですよね。言葉にしたらできなくて。D委員の誇りという部分はすごく惹かれて、自分も1回江差を出た人間で、結局は江差が大好きで住みたいと戻ってきて、自分がこの江差で一生をとげられることが幸せなんですよね。なので、自分が江差で生まれたという事を大事にして、江差に住んでる人も誇りを持って住んでると、いろんな人がその魅力に、町だったり追分だったり江差に住んでる人それぞれに魅力を持って引き込まれて、地元だけではなくていろんな人が集まってくるのかなという。言葉にできなくてすみません。そんなイメージでした。

（議長）

考えてらっしゃることが非常に伝わってきます。江差は人も少なくなっているし、お店も少なくなっているし、人口が少なくなるのと同じようにお店の規模もだんだん小さくなって、なんか寂しいと思っているところに、江差にずっと住みたいんだ、死ぬまでここに居れて幸せを感じるんだと。それがすごく自分たちの誇りなんだという気持ちって、そういえば何かの時に感じるものがあったなと思って、私も思い出して「いいな」と思ったところです。L委員いかがですか。

（L委員）

私もよそからやってきた者としてなんですけど、先ほどの誇りという言葉、素晴らしいなと思って、人それぞれいろんな人がいろんなふうに捉えられる言葉。さっきE委員もおっしゃってたんですけど、私もそういう言葉には大賛成で、誇りというもの、みんなそれぞれ景色だったり食べ物だったり、いろんな価値でいろんなふうに見ていると思うんですけど、この言葉は入れた方が、一人ひとりそのキャッチフレーズを見た時に「あれがある」「これがある」と思えるんじゃないかなと思います。

（古地副会長）

さっきJ委員がおっしゃったように、この辺りで輝きとかがつながってくるので、その辺りにヒントがあるのかなと。皆さんそれぞれE委員の話とつながりますけど、自分なりの何かを持てるような、このまちにいるアイデンティティを自分なりに作れるような事を考えられるというようにことを言うと、誇りというのの一つあるのかなと思うし、持続性とか子どもへのメッセージとかと、そういうものがそこに込められるのかなと、いうふうに思っ。で、あまり長くないような形で誇りというの。そこに住みたい、帰って来たい、誇りをもって住んでいる人達が

いるところって魅力がある、自信がある人達っていうのは、人間でも魅力を感じることもありま
すので、そういうのが一つあるのかなと思いますけどね。

(議長)

事務局どうですか。いろんな意見が出てまいりまして、すぐまとめるのが難しんですけど。

(古地副会長)

今日、決めなきゃいけないんですけど。

(事務局)

作業的には、パブコメまでには決めたいと思っています。パブコメは1月中旬くらいからを予
定しています。

(K委員)

これは「エエ町、江差」の参考にあるように、下に来る感じですか、上に来る感じですか。

(事務局)

「〇〇〇〇 エエ町、江差」になるのかと思います。

(議長)

44ページをみていただくとわかりますが、江差としてこういうところに向かっていくんだよと
いうところで一番上に来る計画なので、「エエ町、江差」というのがこんな感じというよりは、何
か文言があって「エエ町、江差」を目指すんだという感じの総合計画。「エエ町、江差」のコピー
の使い方は、いろんな組み合わせ方でキャッチフレーズのような使い方になります。

(古地副会長)

もうちょっと、もし時間があるのであれば。いくつか出てきたので、絶対外さないでほしいと
いう、多数決ようになって申し訳ないんですけど。

(議長)

言っていることは、みなさん一緒なんですよね。

(古地副会長)

そうなんです。抽象度が結構違ってくるので、例えば市街地のことを統括しちゃうとあれだし、
例えば「誇り」という言葉と、お話を伺って外さないということは、みんなが「いい」ってお
っしゃるのかなと思うのは、私の独断と偏見になりますが、「誇り」とか「古（いにしえ）」とか
「未来」という言葉、あと持続性という概念。こういうものは絶対入れてほしいと思う方が多け
れば、それで、委託業者のご考慮で。

例えば「古（いにしえ）」という言葉を入れたいかどうか。ある意味、これ言っちゃうと全部入
ると思うんですよ。でも、何の「誇りなの」というのを明確にしたいというのであれば、それ
を「誇りをもってどうするの」とか「誇りをもって何をするのか」とか、具体の言葉を入れたい
というと、言葉が選べるんじゃないかなって、見てて、伺って思ったんですけどね。

(K委員)

それをコンパクトにするのであれば、「古（いにしえ）」の誇りを未来へつなぐ エエ町、江差」
っていいんじゃないって。ちょっとL委員と2人でしゃべっていて考えつきました。

(古地副会長)

どうでしょうか、過不足ないでしょうか。では、例えばここに「みんなで」とかそういう言葉を入れるのか、主体を入れるのか、もちろん個人も入るし、集団も入るし、なんですけど、その中で手を取り合ってみたいなことを入れるのか、入れないのかというのも一つあると思うんですよ。主語を明確にしたりとか。みんなでって言ったときにそうなれば、自分が入るのか、若しくはそこまでいなくて、それぞれの立場で関わってもらおうということであれば、そこはあえて言わないとか、どういうふうにそこを考えていくのか。これを発展的にしていくことも大事ですよ。

(議長)

どうやってつなぐか。これって言われても、こんな感じをもうちょっととか、ありますか。

(J 委員)

これ、すごくいいと思うんですよ。そこにあの、先生おっしゃった主語を入れたパターンにするとか、今、会長がおっしゃった、どうやってつなぐところを入れていくか。なんとなくいいような感じになっていると思います。

(G 委員)

私の勝手な意見なんですけど。外に出ていて何十年ぶりに帰ってくると、ちょっと外部の者を受け入れない、この文言の中でですね、古（いにしえ）の誇りばかりを未来につなぐと、変化も何もしない江差人を追っていくんだぞと想いがちょっとよぎっちゃったんですよ。いいことはいいんだけど、正直、江差人気質って大っ嫌いなところもあるんで。誰もかれも受け入れていって、変化もしていって、っていう思いが総合計画の中にあってほしいなって気がするので、古（いにしえ）の誇りばかりを持つと頑固ジジイになってしまうのではという気がしました。

(古地副会長)

重要な視点だと思いますよね。私も言われてハッと思ったんですけど、確かにそういうことで、今後江差が人口が減っていく中で、新しい、外から人を呼びたいと思っていらっしゃるのかどうかということです、みなさんが。それとも、いる人たちが小さくなっていくんだけれども、何とかこれまでの誇りを抱いて生きていくのか、それとも外の人巻き込んで、その外の人にもその誇りを共有してもらいながら町をつくっていくのか、だとか。これって私の専門分野で言うと、移民政策とか多文化共生というところとつながってくるんですよ。私がケベックにいたときに、ケベックの問題で移民政策でいつもぶち当たったのは、生粋のケベック人という概念だったんですよ。そこに私は移住権を持って住んでいましたけど、私はケベックの文化の一部になれないのか、ということを毎日問いながら生きていました。だからそのようなことが、江差の場合、江差に新しく来た人が、江差の文化の担い手になれるのか、みなさんはそのあたりをどうお考えになりますか、ということはお伺いしたいなって、今の話を伺って思いました。江差の出身者以外の人、どこまで江差で完全なプレーヤーになれるのか。そこをどう考えるか、まさにIターンの人が江差のプレーヤーになれるのか。なるためには、みなさんはどのように考えられるのかなと。

(議長)

誇りってすごくいい言葉ですよ。祭りのことも誇りに思っている、追分のことも誇りに思っている。誇りだけでいいのかなと、ちょっと思ったりして。外から来た人間として、誇りを持ちながら可能性を持ちながら。

(B委員)

閉鎖的な。もともと外から船で来た人達で作られた町だし、転勤族も多い町なので、やっぱり受け入れるような町じゃないかな。

(議長)

あえて言わなくても受け入れてるんじゃないかなと。

(B委員)

だけど、線を引いている分野も少なからずあるのかなという。でもやっぱり政策としては…。…うーん。

(議長)

町の皆様は一町民としていかがですか。

(町職員)

私も誇りという部分はいいなと思ってたんですけど、G委員のおっしゃることもわかるなと思っていました。私もキャッチコピーとして、やっぱりみなさん、子どもからお年寄りまで、覚えやすいという事になると長いものはダメだなと思っていますので、そこにたとえば主語を付けるとなると長くなりますし、それ以上長くできないんだろうなと思ってました。私の感覚からすると、すごくいい感じだなと思っていました。

(議長)

次の方、お願いします。

(町職員)

やっぱりG委員が言うように、お祭りでも足を踏み込めない部分があるのかと。確かにあるんですけど、誇りじゃなくていい物の輝きを持っていくというのも一つなのかなと。安直ですけどね。例えば、今の「古（いにしえ）の輝きを未来へつなぐ」という感じにすると、いい物は持っていこうということで。安直で申し訳ありません。

(町職員)

誇りの使い方って2つあるんだろうなと。過去もレガシーみたいな「誇り」という括りにすると、G委員が言ったように、「今違うんじゃない？もっと進化しなきゃいけないんじゃない？」という議論になってくるんだろうなと。未来へ向かっての誇りある活動だとか、あるいは誇りある取り組みだとかそういったものが、シビックプライドにつながってくるので、できれば過去も評価しながら進化する、そういう誇りなんですよ。だから、今ここに住んでいることを誇りだということをしっかりと明文、なんというのか、つなげられれば、すごくいいものになるなと気がして聞いていました。

(古地副会長)

これをどう表現するかですね。「未来への誇り」ってすごくいい言葉ですね。あと誇りを持って未来を切り開いていく、すごく江差の方々らしいイメージじゃないかなと私も思いますけども。

(議長)

過去の誇りだけじゃなくてね。今やっている自分たちの。

(I 委員)

あのすいません、1 点だけ。例えば、その「古（いにしえ）の」と書いてありますけど、「古い（いにしえ）と」にしたら、だいぶ意味合い変わってくるんじゃないかと。

(古地副会長)

「古（いにしえ）と誇りを」、なるほど。

(議長)

古（いにしえ）と共に、という意味ですか。古（いにしえ）と一緒に。

(I 委員)

誇りというのが、昔の誇りとイコールになっちゃうから、いろんな捉え方を含めた方がいいのかなという。

(議長)

古（いにしえ）の色々ないい部分。

(委員)

そうも取れるし、今の若年層も誇らしく思うのも含まれるのかなと、ちょっと思いました。

(議長)

次の方、お願いします。

(町職員)

色々書けば、色々意見がくつついてくるだろうなと。誇りは今もあるし前もあるしこれからも持った方がいいから、単純に「誇りを磨く エエ町、江差」でいいんじゃないかと思いました。誇りを磨く、それはかつてもあった誇りだし、だれもが持っている。人も特定しないし、短くていいんじゃないかなと。

(議長)

誇りの中に全部入っている。次の方、お願いします。

(町職員)

今、I 委員からあったように、「の」から「と」を変えると少し統括できるのかなと。単純に接続詞に。ただ皆さん言うように、長いとちょっときつくなるのかなと。なかなか難しいなと。

(古地副会長)

先ほどの2種類の誇りというのが突破口になると思うんですよね。それを上手く単純にこう表すのか、もしくはちょっと誇りという言葉ではなく、別の言葉で表すのか。ですよね。

(議長)

委託業者としてはいかがですか。

(委託業者)

「の」か「と」の違いでいいと思うんですけども。「の」と「と」の違いって、歴史文化資源がイコール、シビックプライドなんです。とするか、「と」とすると、歴史文化資源も持っているし、シビックプライドのプライドを持ってもいいし。そうですね、つなぐとなるとそれを持って

いくという部分もある。持っていった方がいいと思うんですけど、単純につなぐじゃなく進むと。「未来へ進む」というような言い方もあるかなと。最大公約数からその文章を考えると、「古（いにしえ）」と誇りを共に未来へ進む」みたいな。最大公約数の文章かなと。全員が全部を持っていなくてもいい、というニュアンスが多少あってもいいのかなと思うんですけど。ただ、江差という町にとって、祭り・歴史文化って間違いなく中核的な資源であることは間違いなしで、切り分けてしまうのが正しい事なのかどうか難しいところだと思うんですけど。

（議長）

「いにしえ」という言葉に、古の誇りという言葉が入っちゃてるんですね。「いにしえ」というだけで、古くから私たちはいろんなものを持っているんだという気持ちを、この言葉で表現できて、次の誇りは今自分たちが持っている誇り。っていう意味になりますかね。

（委託業者）

いにしえを全部包含してということで、当初「古（いにしえ）」という言葉で、一言で据えてたという部分もあります。シビックプライド的な部分も含めて。ただ、そうですね。ワークショップとか参加させていただいて、北部の若い男女が参加されていて、お祭りとかまだ全然行っていない、「うるさい」というような方もいらっしゃって。確かに全町民、そこに関しては一枚岩ではないのかなと。

（議長）

お祭りを嫌いな方もいらっしゃいますからね。

（委託業者）

とは言え、江差町のお祭りって中核的なものに間違いはないのかなと思うんです。そういう意味では、わざわざ切り離さなくてもいい部分なのかなとも思いますし、古（いにしえ）でもう書かれているんだという考え方もありますし。

（J 委員）

古（いにしえ）に縛れすぎたという事ですかね。もしかしたら。簡単な言葉でいうとみんなの誇りを未来へつなぐとか。

（議長）

みんなの誇りですか。みなですか。

（B 委員）

いにしえと誇りというと、ゴミのホコリみたいな聞こえ方もしないでもない。さっきから誇りが、ホコリと耳に聞こえてしまう。

（委託業者）

いろんな計画を担当させていただいているもので、江差ならではのフレーズとか言葉ってなんだろうなって思ったときに、やっぱり「古（いにしえ）」って、江差ならではの言葉。いにしえ街道もあるし、歴史、文化、祭り、町の中核であることは間違いないうてことを考えると、「古（いにしえ）」っていう言葉が江差の特性がわりと集約された言葉かなと思って入れたので、取るか、取らないかでちょっとフレーズ設定が大きなことだと思うんです。なので、古（いにしえ）を入れる入れないってところは、ちょっと大きいと思うので。

(議長)

馴染んではいるけど、縛られているなってしまうかもしれない。でも、すごく「古（いにしえ）」といえピンとくると思うし。

(G委員)

「古（いにしえ）」っていうと、やっぱり町もあって、人もあって、歴史もあって、それこそ誇りもあるんだろうなって。

(議長)

「古（いにしえ）」ってだけで誇りを感じますよね。

(G委員)

札幌の町でキャッチフレーズにするときに「古（いにしえ）」なんて言葉、まず使えないって思うんですよね。それは、やっぱり江差だからこそ使えると思うんですよ。これは外さない方がいいような気がするんだけど。いかがでしょう。

(E委員)

それだったら、この最初の「古（いにしえ）」と未来をつなぐ エエ町、江差」で良くないですか。

(G委員)

やっぱりそうなりますよね。私もそれは賛成です。実は2～3年前にこれ、いいなって思ったんです。

(E委員)

下の長いのは全部外してしまっ。

(議長)

すごく凝縮されましたけど。ぎゅっと。何かいわゆるキャッチコピーみたいですね。そういうものでいいんでしょうか。

(事務局)

今のキャッチコピーだと、ちょうど長さ的にもいいと思うんですけど、たくさん議論いただいたものが、結果としてこんな話で最終的に決めましたよ、という経過がきちんと伝わってこないとダメだと思うんですよね。そのことが、今、古地先生が皆さんの意見をホワイトボードに書き出してくださったことが計画書にきちんと掲載されたうえで、このキャッチコピーにしましたよ、というふうに町民のみなさんに伝わってないとダメかと思います。その辺の書きぶりは、委託業者をお願いすることになるんですけど。

(委託業者)

コピーの下に注釈というか、言葉ごとの意味合いを入れるというか。

(議長)

単純に、ただ古いものと上をつなぐんじゃなくて、「古（いにしえ）」の中にこういうものが含まれていて、「未来」の中にはこういうものが含まれていて、つなぐために自分たちは努力もしていくし、思いも込めるんだという、そういうことだっという意味合いが、伝わればいいですかね。

(古地副会長)

そうですね。簡単な注釈よりは、この議論をまとめた形で書いていただけると、たぶんここで出た思いが、簡単に注釈にするともったいないかなと。ある意味、今後10年間、総合計画に戻ったときにこの考え方なのかなってことを、5年後、6年後見ても思い出せるように書かれているといいのかなって思いますけどね。ここで出された思いって、けっこう強いものだと思って。あと、「古（いにしえ）」というのをどう書くのかって。あえて括弧してますけど、漢字がいいのかひらがながいいのかっていうのもあるのかなって。印象がだいぶ違って来るのかなって。まだ、この方が柔らかいとか。

(議長)

委員のみなさまは、いかがでしょうか。

(J 委員)

たくさん議論して、この経緯に戻ってきたというのがわかればいいんじゃないでしょうか。

(古地副会長)

おっしゃったとおり、そこが大事だと思うんですね。

(議長)

こんな言葉がいっぱい出たんだよとか、そういう思いを込めた、この短いフレーズということで。

(事務局)

ここで決定とはしたくないので、今の議論を踏まえて事務局の方で整理をして、最終的に会長と副会長の方にフレーズを一任させてほしいと考えております。みなさん、よろしくお願いいたします。

午後 4 時50分

(休憩)

午後 5 時00分

議案第 1 号 第 6 次総合計画（基本計画）の原案について

(議長)

再開いたします。次に議案第 1 号のうち、計画原案の基本計画及び総合戦略について、素案からの変更点（見え消し資料）に絞って、各課から説明をお願いしたいと思います。産業振興課からお願いします。

産業振興課所管施策の説明

(産業振興課主幹)

はじめに農業分野から説明いたします。まずは54ページをお開き下さい。これまでの取り組みについて、文言の修正や軽微な数値の変更・追記となります。

続いて55ページです。これまでの取り組みについて、⑥の多面的機能支払交付金事業を追記しています。成果指標について、アスパラの作付けを面積から棟数に変更しております。またアスパラガスの株の更新について追記しております。また、現状と課題について、北部地域全域を見据えた大規模な基盤整備の必要性や立茎アスパラガスが株の更新を迎えていることから、ビニールハウスの改修や株の更新等を追記しております。

56ページです。基本方針について、②に経営基盤安定化対策を追記、③に北部地域の基盤整備

を実施することにより作業効率の向上を図り担い手の少人数化に対応する耕作環境の整備を行うというような具体的な文言に修正しております。④として新たに重点振興作物であるアスパラ、ブロッコリーの産地誘導やアスパラガスの株の更新やハウスの改修の追記をしております。⑤として農家と消費者の交流機会を設け地産地消につなげることや、⑥として農用地等適切な管理をするため、地域住民と協力し農業・農村の有する多面的機能の発揮について追記しております。

続いて林業、58ページです。継続的な課題について、町民の森の利活用の促進と林業事業体の育成・支援について追記しました。

59ページです。基本方針に、ヒバの植樹の継続的实施、植栽されたヒバの保育推進を追記しました。

続きまして漁業、60ページです。これまでの取り組みについて、抜けた取り組みがありましたので、追加しています。①付加価値向上の取り組みの活魚パック導入を追加し新たな経営体の組織化や付加価値向上に修正しました。③増養殖事業の取り組みを行ってきた魚種を追加しました。④は、新たに水産多面的機能発揮対策事業の取り組みを追加しています。そして可視化資料として、ここ10年ほどの生産額・生産量のグラフを追加しました。

61ページです。成果指標について、魚種の水揚量増加で設定をしておりましたが、水揚が低迷している中での、水揚量増加の設定は難しいと判断し、別の視点から、地産地消の取り組みとして、江差産ニシンの活用件数の増加、サクラマス活〆・神経〆の単価上昇、増養殖対象種の増加、新規漁業就業者の増という指標で修正しております。現状と課題の継続的な課題についても、指標を改めたことにより、新規漁業就業者への視察や研修の検討、新たな増養殖対象種の検討、それらにあわせて、増養殖施設等のあり方を検討することを追加しました。

62ページです。具体的な施策について、地産外消の推進を追加しております。

商業の分野、63ページです。これまでの取り組みについて、6次産業の推進を一次産業と商工業の連携の推進に修正しております。⑤の江差町創業支援事業について追記しております。成果指標について、商工会の会員数から商業者数に変更し、工業者数を追記しております。また、ふるさと納税の企業版や寄付金額、返礼品数も追記しております。現状の課題について、空き店舗対策の推進を追記しました。

64ページです。現状の課題の続き、ふるさと納税の現状についても追記しております。継続的な課題について、地場の資源を活用した加工場などの生産施設が課題となっていることや商店街で買い物をする顧客が減少する傾向にあることを追記しております。基本方針について、農水産物などの地域資源を積極的に活用できる条件整備を図ることを追記しました。

続きまして111ページ、港湾です。これまでの取り組みについて、港湾施設の機能は、多岐にわたる状況があり、項目でまとめ内容を一新しております。項目①の奥尻島との海上交通基地としての取り組みから、⑦漁港についてまでを追加しております。成果指標について、平成30年度の用地使用件数を修正しております。

112ページです。現状と課題の継続的な取り組みについて、利用者からの要望に対する関係機関との協議、江差港港湾施設定期点検の実施を追加しました。それに伴い、基本方針に定期点検による現状把握を追加しました。具体的な施策について、南埠頭の再編利用計画だったものを江差港全体と修正し、北埠頭フェリー防舷材をフェリー岸壁全体としました。また港湾施設定期点検を追加し、漁港の整備として機能保全・長寿命化対策を追加しました。以上で産業振興課所管分の説明を終わります。

午後5時10分

(議長)

ただ今の産業振興課所管分について質疑意見を求めます。わからなかった点、もっとこういうところを追加した方が良いという意見がありますでしょうか。

(Ⅰ委員)

農業分野で、継続的な課題のところのため池が出てくるんですけど、施策の方でため池の整備という文言が入っていませんが、必要ないでしょうか。

(産業振興課主幹)

ため池も今後改修等の可能性もありますので、改めて追加したいと思います。

(議長)

ほかにごいませんか。産業振興課の分野は、非常に多岐にわたっているものですから。もし、後から気がついた時には、言っていただいてもいいですね。

(事務局)

はい、大丈夫です。

(議長)

これで最終的に締め切るわけではないので、後で私たちの方に、申し出ていただくという形も取れますので、次に進ませてもらってよろしいでしょうか。では、追分観光課にお願いいたします。

午後 5 時13分

追分観光課所管施策の説明

(追分観光課長)

50ページをお開きください。施策の概要ですけども、まずKPIの説明をいたします。KPIは5項目ございます。まず観光入込客数ですけども、平成30年度の286,000人に対しまして、令和6年度は382,000人という数字を掲げました。これは、過去10年の平均値の10%増を目標にした数字です。宿泊観光客延べ数ですけども、こちらは平成30年度の22,000人を26,000人にしています。こちらと同じく10年間の平均、こちらはキャパがありますので、5%を目標にしたいと考えています。続いて下の3つですけども、北海道江差観光みらい機構を、国のDMO法人に登録するにあたって、そちらの方でもKPIが必要になってきます。いろんなKPIをつくるのも私たちとしては事務が煩雑になるということで、そのKPIと重ねていきたいというふうに考えました。旅行消費額、来訪者満足度、リピーター率、これを来年測定しまして、それに対する目標値も来年つくっていきます。どういうつくり方かというと、大学連携の中で色々意見交換したいと思いますけども、基本的には来訪者のアンケートでやっていきたいと考えております。

続いて51ページの具体的な施策ですけども、こちらは大きく3つ入れています。先般の第3回審議会では、H委員から「追分は言葉では出ているけど、どうなんだろう」というお話がございましたので、観光ブランド化の推進と受入環境の方で入れさせていただきました。また、道内7空港が民営化になりますけども、そちらとの連携もしていきたいと考えています。

続いて68ページからは、分野別の施策で、我々の担当です。まず表題。当初は観光という形でしたけども、江差にとってみると、観光と同じく江差追分も並ぶものということで、表題に「江差追分」を追加しました。

70ページです。具体的な施策については、継続施策というもののだけにしてたんですが、こちらでも江差追分というものが出てきます。しっかりつくっていかなくてはならないのもありましたし、北の江の島構想も10年の中で動いていくことになりますので、DMOの組織運営と日本遺産を合わせて4項目を重点施策にして新たに設けさせていただきました。中身的には大きく変えていません。以上です。

(議長)

説明がわからなかった点とか、ご意見などございませんか。

(K委員)

前回、1時間しか出られなくてお話しできなかったんですけど、江差追分もさっきも言ったんですけど、江差だけにしかない魂の唄って言われているので、残していかなければならないと思うんですね。全国的にも民謡団体自体が、高齢化して、江差追分もそうなんですけども、それをどう未来にもっと魅力を引き込んでいくかという部分で、すごく悩む点がたくさんあるんですけども、課題はたくさんあって。

端的に言うと、追分会館の周りを通ると、以前は追分が流れていた。それを聞くと江差に来たなっていう感覚があったんですけど、今は、流れてないんですよ。どんな理由で無くなったか私もわからないんですけど、例えば、江差に来たら追分が流れて、「追分流れるロマンの町」じゃないけれど、「ああ、江差に来たな」と感じてもらえる。そういう小さいことから、もう一度やっていけないかなと思います。ただ、追分会が3人しかいない。追分会の事務局が実質3名しかいない。追分観光課長を入れると4名になるんですけど、私が25年前に追分会の事務局で働いていたときは、そこに5人いたんですよ。それでも大変だったんで、今の事を考えるともっと大変じゃないかな、大丈夫なのかな、と心配です。あとはもう一つ、待っているだけでは魅力というのは伝わらないし、どんどん発信していかなければならないなと、そういうのをみんなでタッグを組んでやれたらいいなと。このあいだ言えなかったんで。

(議長)

どんどん表現して欲しいという事ですね。

(K委員)

そうですね。前に出て発信して、知らない方とかも初めて聴いたときに「江差追分ってすごいんだ」と。地元の江差に行って、本場で聞いてみるかというふうになるような行動を起こして。すいません短時間ではあれなんですけど、簡単に。

(追分観光課長)

よろしいですか。今3つあって、音・人・発信ですね。音に関しては大変申し訳ございません。機械が壊れたというレベルの話だと思いますので、確かにあそこに追分会館にスピーカーがあったなと思います。実は一昨年ですか、いにしえ街道には、町会所とチャミセのところに。

(B委員)

あるけど最近流れていない。

(追分観光課長)

10月で終わりますから。観光シーズンにはインターネットで音を飛ばして、いにしえ街道には流すようにしています。できれば、それを増やしたらどうかとまちづくり推進課長から言われた経過もありますし、追分会館は至急出来るのかなと思います。シーズンになったらやっていきたいと思います。人の部分は、私の方で答えられる部分と答えられない部分があります。最後に発信です。いま発信で、江差追分の〇〇しようという話もありましたけれども、今年の1月に札幌のhitaruでやったコンサート。2,000人ずつ入りましたけれど、じゃあ、あれで新たにどこかの人が会に入ったかという、そういう話は実は聞かないんですよ。ちょっとさみしいんですけど。ただ、良かったと思って帰ってくれる人がほとんどだったということですし、それを聞いて江差に行きたいと思った人がいるということですから、やっぱり発信はしていかなきゃないんだろうなと思います。そこは重点施策の中でも、江差追分の普及伝承の中のトップに、江差追分の魅力

発信・向上のことは記載しておりますので、やっていくということでご理解ください。よろしいでしょうか。

（議長）

発信は、江差追分に関わらず江差町の観光という意味でも、いろんな産業振興のためにも大事な点だ。あちこちに出てきますので、特に追分の場合は発信したいところではありますが、ぜひこのあたり考えていただければということです。A委員は観光という意味でいかがでしょうか。

（A委員）

江差の旅館等宿泊施設には、観光シーズンにちょうど現場の方々が入っちゃっています。観光のお客さんが来ても泊まっていただくスペースが今のところ少ないんですね。ちょうど同じシーズンに重なっちゃってるんです。11月からこの冬が、今みんな暇です。ちょうどその間に追分セミナーが入ってきてくれるので、宿泊業者はすごく助かってるんですけど、それが無いと江差の宿泊施設は、結構きついですよね。泊まるのがどうにか分散できればいいんですけどね。冬の間に現場の仕事があればいいんですけど、冬に現場仕事をやれっていうのもきついで、それはそれで考えなければいけないことですし、こっちも冬の間に何かあって、サービスして泊まってくれるというのがあれば、ここまで来るの大変なんですけど、それがあれば少しお客さんが来てくれるのかなと思うんですけど。

（議長）

ある意味、全天候型の観光がほしいところですよ。あとはよろしいですか。次に進ませていただいてもよろしいですか。次にまちづくり推進課所管部分です。まちづくり推進課長お願いします。

午後 5 時25分

まちづくり推進課所管施策の説明

（まちづくり推進課長）

これまで各課長から所管部分の説明がありましたが、私からは総体的なところも含めて説明します。総合戦略について、48ページをご覧ください。総合戦略は、基本的には国が東京一極集中の是正をもう一回目指すということですが、現実には東京一極集中が止まらないという現状です。交流人口だとか移住定住そういったものにベクトルを向けていましたが、それもなかなか難しいということがあって、「関係人口」という言葉が最近出てきました。この1、2年だと思います。これを簡単に言うと、例えば、ここにいるH委員が札幌に転勤した後にお祭りで毎年この町にやってくる、あるいは追分に携わっている方が全国大会でこの町にやってくる、A委員が言ったセミナーでこの町にまたやってくる、そういった人たちを取り込んでしっかりと地域で循環して消費してもらうということをやっていきましょうということです。関係人口という言葉は今回の計画では、いろんな施策に散りばめたという事が特徴の一つ。それから委託業者から説明があった、成長戦略という中でのSociety5.0というものがあります。これはICTをモノに伝える、情報をモノに伝えてAIとかいろいろやりましょうということなんです。そういったものを意識した作りになっているというのも、この総合戦略の大きな特徴であって、スマート農林漁業だとか、そういったものを具体的な施策のなかで散りばめているという事です。

それと51ページ。道内7空港の一括民営化による空港周辺市町村と連携。これについては、前回の審議会で説明がありましたが、道内7空港の一括民営化がなぜ関係あるのかという事なんです。先般の社長の会見をみると、道内7空港の今ある路線を倍以上にしよう、国際線国内線含めて。そういう目標を持ってこれから進むという事です。ここに来る方がもっと増えるで

しょう。ただ、増えるためには各空港の所在自治体だけではまず無理でしょう。周辺を含めて、周遊観光や広域連携をやっていきたいと思いますという事なんです。これから北海道が本腰を入れて、この施策を推進していくんだらうなど。そこに我々がしっかりと書き込んでいくことによって、北海道を中心として広域連携事業を今後取り込んでいけるんだらうなどという事です。

52ページです。江差っ子チャレンジ支援で仕事をつくるの章です。ここにも交流人口、関係人口、あるいは人材の育成、こういったものが国のワードにもなっており散りばめています。22ページで記載した江差の特性で、江差は顔の見える雰囲気があるってことも評価しています。こういった中でコミュニティ。こちらに來た方々が、G委員のお話にもありましたが、なかなか受け入れがたいという部分がある反面、人懐っこいという部分もありますので、コミュニティ活動を推進しながら、ここに來た方々が安心して住み続けられる環境をつくりましょうと。それには交通網の整備であったり、あるいはその方達が活躍する空き店舗であったり、そういったものを今回、はめ込んだという事です。それは国の総合戦略にも合致していると思います。

53ページです。内部で色々と話をして、やはり国の関係人口というところに敏感に反応していきたいということで、シティプロモーションの推進。これは町の移住定住施策の売り込みをしていきたいと思いますという事です。それとテレワークの検討。これは議会から何回か質問されていますが、避暑地で仕事をしていただく、働き方改革含めてそういう場所を作っていくという事です。それと関係人口の拡大につながる交流の推進。これは追分・祭り、そういったものを含めて深掘りして追跡しましょうと。と、というような中身でつくっています。総合戦略は以上になります。

63ページです。ふるさと応援寄付金額です。前回の審議会で目標額を設定してしっかり取り組んでというお話がありました。今、3,000万円ちょっとですが、なんとかこの5年間で1億円に持っていくように努力したいということで目標値を上げています。

64ページ。今回の総合計画の中で、この10年間で何が起きていくかという点で大事なもう一つは、キャッシュレス化の推進です。商店街の拠点化を進めるうえで、あるいは外から來た方々の利便性を求めるうえで、キャッシュレス化は避けて通れないんだらうなど。ただ一方で、商店街の方々が高齢化して、それについていけないという実態もあるという事です。商工会としっかりと連携し、使う店・使わない店の仕分けもしていかなきゃならないんだらうなど。

66ページです。総合戦略や人口ビジョンで、Uターン・Iターン・Jターンの推進方策を掲げている一方で、雇用創出の書き込みが不十分でした。基本方針の②の書きぶりは削除します。変わる内容を産業振興課ともう少し意見交換をさせてください。それと具体的な施策です。例えば創業支援事業。商工会、信用金庫とのワンストップですが、創業支援事業をやることで、受けられる支援として融資もあるし創業プランの策定もあります。それと継続施策の起業の支援で、雇用拡大の企業助成だけじゃなくて、例えば具体的には、江差町では産業資金の貸付や、あるいは中小企業の融資制度があるとか、そういう施策をもう少し精査してまいります。

86ページ、地域医療です。これまでの取り組みについて、道南ドクターヘリを追加します。

93ページ、学校教育です。基本方針の中で、前回の審議会で意見のあった小中学生の学力関係について、学力体力の向上という括りで追加しました。

96ページ、社会教育です。地域の特性を活かしたスポーツの普及・啓発、地域の特色や専門性を活かした合宿、大会誘致、あるいは総合体育館の住民ニーズの調査。ここは前回の審議会で二人の委員から意見がありましたので文言を精査させていただきました。

99ページ、コミュニティです。基本方針の③「大学と引き続きソーシャルクリニック」と書かれていますが、一方、成果指標で連携先大学等の増としていますので、ソーシャルクリニック自体は北海道教育大学函館校との連携事業の総称を言っておりますので、ここの文章は精査します。

101ページ、移住・定住・交流です。これまでの取り組みについて、⑥おためし暮らし関係は削除します。先ほど総合戦略の説明の中で、シティプロモーションといいました。それを進めていくためには、現状と課題で、きちんと整理しなければならないということで、文章項目を一つ追加しました。102ページの基本方針の方でも、シティプロモーションあるいはテレワークについて追加記載しました。

103ページ、土地利用です。北の江の島構想の関係ですが、重点施策の中にかもめ島周辺の観光、交流拠点としての土地利用の推進とありますが、北の江の島はいよいよ構想から、推進・実行に入っていきます。この5年間で一定程度アクションが出てきます。少なくともこの3月には、全体図を示していきます。そういった部分で動き出すという事。土地利用施策については都市計画マスタープランの方でも色々と議論されていまして、かもめ島周辺は観光交流拠点と位置付けられています。そのことと、きちんと整合性がとられていますということを言っています。都市マスや港湾でも物流の拠点と位置付けられていますから、北の江の島が進むべき方向と合致しているという事ですので、どう計画間で整合性を図られるのかというご指摘に対しても「図られています」という確認をここでさせていただきます。

111ページ、港湾・漁港です。現状と課題について、北の江の島構想と整合を図った道路計画の策定という課題がありますので、これから産業振興課と意見交換してまいります。112ページの具体的な施策の中に「江差港長期構想計画の見直し」、これを入れなければ一体化にならないのでこの点も意見交換していきたいと思います。

113ページ、地域公共交通・情報通信です。基本方針の②情報通信については、観光客の利便向上につながるためという箇所を削除しました。I委員にもお話を聞きましたが、北部地区の一部が情報過疎です。光回線が通っていません。そういった改善に取り組むために、例えばこれから全国的に5Gが入ります。そういったものは、多くが都市部から始まって、最後の方に地方で完結するというのがこれまで良くある流れですが、どうやら国は、手上げをしたところは率先して5Gを先にやってもいいよというようなこともチラチラ窺わせています。ですから、そこをどうやって先取りしていけるかという事を少し検討していきたいということで、観光客だけではなく、北部地域も含めてそこに住んでいる人たちの利便向上のためにやるんですという事で整理したいと思っています。それと重点施策です。まちづくりと一体となったまちづくりの装置ということで、いよいよ地域公共交通が、バス・タクシーそういったものから、ドアtoドアのサービスが始まってくるんだろうということで、江差町の実態に合った再編整備計画、こういったものを作りながら高齢化社会に向けて動いていかなきゃならないんだろうなど。そういう中では、社協の皆さんと連携をとって、どういった方がどういったニーズがあるのか、我々がしっかり把握してこれからの計画を作る。これは都市計画マスタープランでは、路線バス等を補完する新たな医療サービスの検討という書きぶりで、デマンド、ライブシェア、フリー乗降、こういったものも含まれています。お互い同じ問題意識を共有しながら、その解決に向けた内容にしています。

最後119ページ、自然環境・エネルギーです。現状と課題の中で、今みなさんが関心の檜山沖の洋上風力を追加しました。120ページ重点施策の環境共生に向けた取り組みで、風力・太陽光について、風力という括りの中では、これから元山風力のリブレースが始まりますし、洋上風力の動きが出てきます。そういったものを敏感にしっかり捉えるということと、もう一つ、これが3年後、4年後に動き出すということになると、66ページ雇用創出のところで関係しますが、メンテナンスの企業を誘致しますとか、当然そういった話も可能性が出てくるでしょう。5年後の総合計画基本計画の見直しの時には、洋上風力の一定程度の部分と方向が示されているはずですから、そういう部分では、江差町はまた風力によって新たな風力クラスターみたいなもので産業振興を図っていく、そういうような議論をする場面が、3年後、4年後に出てくるかもしれないと感じています。以上です。

(議長)

三課の説明が終わった訳ですけども、色々書き加えられたものは、委員のみなさんがいろんなところで発信してくださったり、提案したり、質問してくださったりしたもの。それと色々な会議の中で、これはどうなっているんだろう、こうしてほしいとかいうようなことを受けて、各課でこの中に盛り込んでくださった内容です。あれはどうなっているんだろうか、確かあれをお願いしたはずなのに盛り込まれてないんじゃないか、などありましたら、おっしゃっていただきたい

いところであるんですけども、これだけのページ数、スピードで説明をしていますので。

事務局に伺います。この後のスケジュールの中に出てくると思うんですけど、いつまでなら、気がついたものや修正が必要な文言などを受け付けられますか。締切はいつにしますか。

(事務局)

予定の部分にも入るんですけど、キャッチコピーについては、会長・副会長・事務局の預かりということで確認させていただきました。これが、いつまでかという話になりますけど、パブリックコメントを出すまでには整理をして今なければならないと思っています。ですから、このスケジュールと合わせて、ある程度修正していくというふうになると思うんです。1月20日にパブリックコメント開始を予定しておりますので、1月6日の週ぐらいには事務局宛ご意見いただければと思います。

(議長)

では、1月10日金曜日までということですので、気が付いた方は、私か事務局におっしゃっていただければと思います。

ということで、一部、今後の予定まで移ってしまいましたが、今の段階で質問とか気がついたことはありませんか。

(古地副会長)

体裁がこれから変わると思うんですけど、SDGsのマークが小さすぎて読めないと思います。たぶん誰も読めないと思うので工夫した方がいいと思います。

(議長)

鮮明じゃないですね、この写真。これきれいに出るんですか。

(事務局)

計画書本体は、基本的に青を基調とした2色刷りになります。黒と青。ただし、SDGsの説明のところだけ、17種類のページ、そこはフルカラーでやろうと思っています。委託業者に聞きますが、分野別施策のアイコンについてはどうですか。

(委託業者)

アイコンは、灰色基調にならざるを得ないかもしれません。でも、きちんとわかるように解像度なり、大きさも配慮してやっていきたいと思っています。

(議長)

よろしいでしょうか。ほかに何か気がついたこと、今なら言えることとか。

(B委員)

ちょっと気になったことがあって。仕事で事業所さんを相談で回ることがあって、話をしていると、転勤族がせっかく顧客についてくれたのに、いなくなってしまう。そして、また、新しい人が来るんですけど、その人が来てくれるかどうか、みたいな話がすごく多いんですよね。それが、私の運営している店でも、前に、ちょくちょく来てくれた方がいなくなってしまう、その後途絶えてしまう、のがあるんですよね。それでその、何というんでしょうかね、江差町では移住者向けの便利帳みたいなのは出したりしているのかなって思うんですけども。その個店バージョンじゃないけど、町にこういう美味しいものがある、こういうお店なんだよっていうのが、たぶんこれは役場では作れないと思うので、有志だとか商工会だとか、それこそ「ようこそ江差へ」みたいな感じでPRできると、つい最近、行ったことがないお肉屋さんとかがあって、行く

とすごく良くてそこでお肉を買っているという状態なんですけど。やっぱり入れないですね。何でそういうの、今まで思いつかなかったかって。

(議長)

飲食店では昔作ったことがありますよね。

(B委員)

移住者向けのガイドブックがあると、2～3年ないし5～6年はいるので、観光ガイドブックよりは効果があるんじゃないかなって。やっている地域ってあまりないかもしれないですけど、個店では一人、二人リピーターが増えるだけで、だいぶ違って来ると思うので、そんなのが先、今すぐではなくて、できれば来た人に渡せるのかなって。情報がすぐ変わるので、なかなか難しいと思うんですけど。自分が探したい情報はネットでも検索できるんですけど、ほとんどスーパーに行っちゃって興味がなくなってる。

(議長)

他に何かございませんか。今みたいな話でも結構です。よろしいでしょうか。大丈夫でしょうか。先ほど説明のあったように、言い忘れた部分については、1月10日まで受け付けます。それでは、ここまでの段階でまずは承認ということで、していただけますでしょうか。

(全員、はいの声)

(議長)

ありがとうございます。それでは、議案第2号今後のスケジュール案についてよろしく願いいたします。

午後5時50分

議案第2号 今後のスケジュール案について

(事務局)

議案3ページをご覧ください。1月から3月中旬の令和2年第1回定例会のところまで説明します。今日の審議会以降、来年の1月8日まで何をやるかと言いますと、先ほど12月20日のところで説明しましたがけれども、地方創生推進交付金の実施計画書案を出さなければならないということで、それを8日までにします。それと1月10日までに、今日いただきました意見に基づきまして修正作業をやっていきます。また1月上旬までに原案が出来たとすれば、役場の課長会議を開催して庁内策定委員会という位置づけの中で提示をしていきたいと考えております。それらと並行して、議会にも特別委員会の招集をお願いして、パブリックコメントに出す原案の提示を考えております。1月20日にパブリックコメントを開始いたします。2月2日までの14日間、2週間行います。1月22日には推進交付金実施計画書の本提出ということになります。2月2日にパブリックコメントを終えて、パブリックコメントで意見があったという前提で、上旬のうちに意見反映を検討することと、寄せられた意見に対して町のホームページを通じながら総括的な回答を行います。それらを踏まえて2月上旬、次期総合計画の案というものが出来上がります。その案の段階では、ちょっと話が戻りますが、1月20日頃から1月末くらいまでかけて、町の新年度予算案が決まってきます。パブリックコメントが終わる時期までには、新年度予算と最後の突き合せをして、新年度予算で盛り込まれる内容と計画の施策に漏れがないか、最終の仕上げをしていきます。そして、パブリックコメントの反映、新年度予算案の反映の終わったものを最終的に報告する場ということで、最終の策定審議会を2月21日午後3時半から役場で開催したいと思います。そこでは完成形になった総合計画の案を皆さんに提示することと、町長に対して

赤石会長から、審議会としての答申書を手交していただきたいと思います。

それらを経て、最後に課長会議で確認をして、3月定例会にて基本構想を上程していきたいと思っています。以上で、向こう2ヶ月間の提案をさせていただきます。よろしくお願いいたします。

(議長)

確認したいのは、1月10日までに気がついた事をお寄せいただきたいということと、2月21日はぜひ空けておいていただきたいという事です。午後3時30分から最後の審議会です。

そして、この総合計画が、どのように活かされていくか、どういうふうになるか、説明いただければと思います。

(事務局)

みなさんで4回にわたって議論をしてもらって、今、第5次計画がまさにアップデートされた状態のものができます。今後、所管課が、自分たちが使い勝手がいいようにカスタマイズしながら使っていかなきゃならないんだろうなと。そこでやるのは「できる化」ということ、仕組みを作る「仕組み化」、そして古地先生がいつも言う「可視化・見える化」ということ。この3つの要素をしっかりと回していくということです。それが実施計画に反映されていくということです。「できる化」「仕組み化」「見える化」、こういったことをずっとサイクルで回していきたいというのが、この間各課の担当者に強く周知徹底してきたことです。そういう仕事に対する姿勢は少し育ったかなと思っています。職員それぞれが、この3つの言葉をキーワードにしっかりと回していただければなど期待をしていますし、やれるはすだと思っています。以上です。

午後6時00分

8 閉会

(議長)

出来上がるものはあくまでも計画ですから、計画は言うのは簡単で、これを今、事務局もおっしゃったように、きちんとできる、やっていくということが大事なところですよ。せっかく私たちがこんなふうにして欲しい、こういうところを困っている、こういうふうにしてもらった町が良くなると、せっかく考えた事ですから、これを委員の皆さんもいつも意識して「あれはどうなっているんだろう」「やってくれているんだろうか」。おそらく町の広報でいろんな発信があると思いますので、その辺をきちんと見ながら行政の動きをスパイのように、鷹の目のように、場合によっては「あれはどうなるの」というような発信があると、「あっ見られてるな」と、やらなきゃいけない元気が出ると思いますのでそういう事をしていきたいと。

また審議会も、どこまでできているのかを見ていくのも私たちの仕事ですので、招集がかかった時には是非ともお時間をいただきながら、「あれは上手くいってるね」「あれはどうなったんだろう」と、ここでまた話し合いができるといいのかなと思っています。その折には、是非ともよろしくお願いします。

ということで、全部含めてその他何か言い忘れたこととかありませんか。全部よろしいですか。委員の皆様よろしいですか。

それでは全日程が終了しました。本日の審議会を閉会いたします。皆様ご苦労様でした。ありがとうございました。

以上。